

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問

比較と共通点、情報の選択を読む

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 駅で見る路線図と、同じ地域の地形図を並べると、線の形も駅の間隔も違って見えることがある。どちらも同じ土地に関係しているのに、なぜ形が違うのだろう。地図は、現実のものを小さくして全て写した図ではない。何を読み取るために使うかに応じて、情報を選び、記号や線の配置で関係を表したものである。表している情報の種類を知ると、形の違いが生まれる仕組みが分かる。
- ② 例えば、ここでは乗り換える駅と路線のつながりを示すことを目的とした路線図を考える。実際には曲がりくねった線路も、図では直線に近づけられる。駅の多い場所では、駅名を重ねずに書くため、駅同士の間隔を広げることもある。この図で大切なのは、どの駅の次にどの駅があり、どこで別の路線に移れるかという関係である。線路の曲がり方を単純にしても、駅の順序と接続が保たれていれば、その目的に必要な情報は読み取れる。
- ③ それに対して、土地の距離や方向を読み取るための地図では、位置関係を一定の縮尺で表す。実際の距離と図の上の長さとの比が分かれば、距離を見積もることができる。ただし、縮小すれば細い道や小さな建物は描き分けにくくなる。地図の大きさに関りがあるため、全てを同じ細かさで載せることはできない。文字や記号を読みやすくするための省略や調整は、こうした地図でも行われる。目的が違っても、選択が必要な点は共通している。
- ④ さらに地図では、目に見える形を似せて描く代わりに、記号の約束で種類を表すことがある。学校には学校の記号というように、同じ種類の場所を同じ形の記号で示せば、個々の建物の形が違っていても、同じ種類の場所として探せる。ただし、その約束を知らなければ、記号の意味を取り違える可能性がある。そこで凡例が、記号と意味の対応を示す。凡例は図に情報を付け足す飾りではなく、図を読むための規則を説明する部分なのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題1ページ。

⑤ 二つの地図を組み合わせるときには、この規則の違いが重要になる。路線図で駅と駅が近く描かれているからといって、歩く距離も短いとは限らない。反対に、土地の地図で二つの駅が近くにあっても、改札や通路がつながっているとは限らない。乗り換えの順序を路線図で確かめ、徒歩で移動する距離を土地の地図で確かめるように、読みたい情報に応じて図を使い分けると、それぞれの省略を補える。

⑥ 地図の分かりやすさは、情報の多さだけで決まるのではない。必要な関係を見つけやすいか、その関係を表す約束が読み手に分かるかによっても変わる。省略は、単に情報を失わせる操作ではなく、目的に必要な関係を目立たせる働きも持つ。ただし、省かれた情報まで図から判断できるわけではない。地図を理解するとは、描かれたものを読むとともに、何が表されていないかを、目的や凡例から確かめることでもある。

問1 本文が主に説明していることとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 地図の種類ごとに、製作にかかる時間が異なる理由。
- イ 路線図を用いて、最も速く目的地へ到着する手順。
- ウ 昔の地図が現在の地図へ変化してきた順序。
- エ 地図が目的に応じて情報を選び、関係を表す仕組み。

問2 ②段落の路線図で、線路の形を単純にしても目的を果たせる条件として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 駅名を減らし、全ての駅を同じ間隔に並べること。
- イ 駅の順序と、別の路線へ移れる接続を保つこと。
- ウ 線路の長さを縮尺どおりに測れるようにすること。
- エ 曲がり角をなくし、全ての路線を平行に並べること。

問3 ④段落で、凡例が示す内容を表す言葉を、一続きで抜き出しなさい。（8字。かぎかっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--

8

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4 ②・③段落の関係として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 異なる目的の地図を比べ、どちらでも情報の選択が必要になることを示す。

イ路線図の誤りを地形図で正し、地形図では省略がないことを示す。

ウ 昔の図と新しい図を比べ、地図の種類が一つに統一される過程を示す。

エ 一般的な地図の作り方の後に、同じ作業を駅だけに当てはめて示す。

問5 ⑤段落に基づいて、本文で考えた路線図だけでは判断できないこととして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア ある駅が二つの駅のどちらの次にあるか。 イ ある駅で別の路線に乗り換えられるか。

ウ 二つの駅の間を歩くときの距離が短いか。 エ 一つの路線上で駅がどの順序に並ぶか。

問6 ③段落の地図も、全てをそのまま載せられるわけではないのはなぜですか。縮小と読みやすさの関係に触れて説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7 路線図では隣り合う二駅が、土地の地図では離れていました。二つの図のどちらかが間違いだとは限らない理由を説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問8 地図で情報を省略することの働きと、読む際の注意をまとめなさい。(55字以上90字以内)

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 目安 35分 | 全8問

条件をそろえ、時間の変化を読む

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① 雨水をためる容器を考えると、容器の大きさだけに注目すると、水があふれる理由を捉えきれない。入ってくる水と出ていく水が、時間とともにどのように変わるかも関係するからである。ここでは仕組みを分かりやすくするため、目盛りのある模型のタンクを使う。雨を集める入口と、水を少しずつ流す出口があり、上限までたまるとそれ以上の水は別の受け皿へあふれる。実際の施設の性能を計算するのではなく、流入、流出、貯留の関係を見るための模型である。

② タンクに残る水の量は、ある時間の初めにあった水に、その間に入った水を足し、出た水を引くことで考えられる。例えば、一分間に六杯入り、二杯出たなら、あふれない限り残る水は四杯増える。次の一分間も同じ条件なら、さらに四杯増える。水が出続けていても、入る方が多ければ量は増すのである。反対に、入口から水が来なくなった後も出口から流れれば、たまった水は少しずつ減る。流入が止まる時刻と、タンクが空になる時刻は同じではない。

③ ここで、同じ合計量の水を入れる二つの場合を比べてみよう。短い時間にまとめて入れる場合と、長い時間をかけて少しずつ入れる場合である。後者では、入れている間にも水が出口から流れ続けるため、途中でたまる量を小さくできることがある。合計量が同じでも、途中の最大量は同じとは限らない。容器の上限を超えるかを考えるには、合計量だけでなく、各時刻までに入った量と出た量の差を見る必要がある。

④ タンクの役割は、この時間差に表れる。入口から一度に来た水を一時的にため、後の時間にも分けて出口から流すことで、入口の急な変化を出口へそのまま伝えにくくする。ただし、水を消しているわけではない。外へ流す量を減らした時間の分だけ、水はタンクの中に残っている。流入が長く続けば、出口を狭くしたタンクは早く満杯になる場合がある。ためる容量と出す速さは、どちらか一方を大きく見ればよいという関係ではない。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題5ページ。

⑤ 実験で二つのタンクを比べるなら、はじめに入っている水の量もそろえる必要がある。空のタンクと半分入ったタンクでは、同じ容量でも新しく受け入れられる量が違うからだ。また、入口からの水の入れ方を変えると、出口の違いによる効果なのか、入れ方の違いによる効果なのかが分からなくなる。ここで使う「一分間に二杯出る」という条件は、比較のために設定したものである。現実の出口では、水の深さなどによって出る速さが変わることも考えなければならない。

⑥ この模型では、水の量と速さを区別すると全体の動きを説明できる。容量はためられる量の上限であり、流入や流出の速さは一定の時間に移動する量である。その二つを結ぶのが時間の経過である。目の前の水位だけを見ても、今後増えるか減るかは決まらない。今入っている量に加えて、これから入る速さと出る速さを合わせて考えることで、タンクの働きと限界を読み取れるのである。

問1 ①段落で模型の目的を説明している理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 実際の施設にも、模型と同じ杯数をそのまま当てはめられると示すため。
- イ 現実の雨量を正確に予測するため、模型の容量を固定していると示すため。
- ウ 現実の全ての条件を扱うのではなく、流入・流出・貯留の關係に絞ると示すため。
- エ 水の流れ方は条件で変わらないので、施設の違いを無視できると示すため。

問2 ②段落の条件で、あふれず、出口からも設定どおり流れるとき、一分間に水が四杯増える理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 入る六杯のうち二杯が同じ時間に出て、差の四杯が残るため。
- イ 出口に残った二杯が入口の六杯に加わり、半分になるため。
- ウ タンクの容量から入口の六杯と出口の二杯を差し引くため。
- エ 出口から二杯出るまで、入口の六杯のうち四杯が待つため。

本文メモ 主な内容と、根拠になる段落を確かめよう。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3 ③段落で、「合計量が同じ」でも同じとは限らない量を表す言葉を、一続きで抜き出さない。 (6字。かぎカッコは含めない。)

--	--	--	--	--	--

6

問4 ④段落におけるタンクの働きとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア ためた水の一部をなくし、出口から流れる総量を減らす。
- イ 水を流す時刻を分け、入口の急な変化を和らげて伝える。
- ウ 出口を狭くするほど、満杯になるまでの時間を長くする。
- エ 流入の合計量を変えずに、容器の上限を大きくする。

問5 出口の大きさの違いを比較する実験で、本文に沿った方法として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 片方だけ初めから水を半分入れ、満杯になる時刻を比べる。
- イ 同じ合計量の水を片方だけ速く入れ、最大の水位を比べる。
- ウ 容量も出口も変え、満杯にならなかった理由を出口に求める。
- エ 初めの水量と容量、入口からの入れ方をそろえ、出口だけ変える。

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 同じ合計量を入れても、ゆっくり入れる方が途中でたまる量を小さくできることがあるのはなぜですか。（55字以上90字以内）

[illegible]

問7 出口を狭くすれば、外へ流す勢いを抑えやすい一方で、満杯が早まる場合もあります。本文の仕組みに基づいて説明しなさい。（55字以上95字以内）

[illegible]

問8 タンクの今後の水位を考えるために、水位だけでなく何を合わせて考える必要がありますか。容量の限界も含めてまとめなさい。(55字以上90字以内)

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C 列が生まれる仕組み

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問

一部分と全体の関係を説明する

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① 展示会の入口で、受付の机を二つ用意したのに、列がなかなか短くならないことがある。受付を増やせば待ち時間が半分になる、と単純には考えられない。この仕組みを、架空の展示会で説明しよう。入口では来場者の確認と資料の受け渡しを行う。列の長さは、来場する人の数だけでも、一人の手続き時間だけでも決まらず、到着と対応が時間の中でどう重なるかによって変わる。

② まず、一つの窓口で一人に対応している間に、次の人が来れば、その人は待つことになる。対応が終わるたびに一人ずつ列から出るが、その間に二人来れば列は長くなる。この状態が続けば、係が手を休めずに働いていても列は伸びていく。到着する人数が落ち着いた後には、対応できる人数の方が多くなり、列は少しずつ短くなる。混雑を作った人の到着が終わっても、できた列がすぐ消えるわけではない。

③ 同じ人数が来る場合でも、到着の仕方によって待ち時間は変わる。短い間に大勢がまとまって来れば、空いていた窓口が一度に埋まり、残りの人が待つ。一方、一人の対応が終わるころに次の人が来れば、列ができにくい。全体の人数を開場時間で割った平均だけでは、途中の集中が見えなくなる。また、手続きの時間が人によって違う場合もある。平均では十分に対応できるように見えても、実際には長く待つ人が出ることがある。

④ 次に、来場確認の机を二つに増やす場合を考える。二つの机が同時に使え、どちらでも手続き全体を終えられれば、一度に二人へ対応できる。しかし、確認の後に一か所の資料置き場で必ず受け取る仕組みなら、列が移動するだけの場合もある。入口での確認が速くなっても、その先の資料受け渡しに人が集中するからである。このように、一連の作業の中で全体の進み方を制限する部分を、ここでは「詰まりやすい部分」と呼ぶ。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

C 列が生まれる仕組み

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題9ページ。

⑤ 詰まりやすい部分は、いつも同じとは限らない。資料をあらかじめ袋に入れて受け渡しを短くすれば、次は来場確認の方に時間がかかるかもしれない。全体を改善した結果、制限する部分が別の場所へ移るのである。そのため、ある机の前の列だけを見ると、改善が進んだように見えても、入口から展示室に入るまでの時間は変わっていない場合がある。どこで待ち、各作業にどれだけかかるかを分けて記録すると、全体の流れを捉えやすくなる。

⑥ 受付の混雑は、到着の集中、対応の速さの違い、複数の作業のつながりが重なって生まれる。机の数を増やす方法が有効かどうかとも、それらの条件による。窓口の前の列の長さは、その時点で見えている結果であり、列が生まれた仕組みそのものではない。時間ごとの到着と対応の記録、作業の順序を合わせて読むことで、列が増減する理由や、一か所の改善が全体にどう影響するかを説明できるのである。

問1 ②段落で、係が休まずに働いていても列が伸びる理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 待っている人がいる間は、新しい来場者の手続きができないため。
- イ 一定時間に対応できる人数より、同じ時間に到着する人数が多いため。
- ウ 列が長くなると、一人の来場者に必ず長く対応するようになるため。
- エ 対応が終わった人も、列の最後まで進んでから展示室へ入るため。

問2 ③段落の「平均だけでは、途中の集中が見えなくなる」とは、どういうことですか。最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 平均を求めると、来場者の合計人数そのものが変化してしまうということ。
- イ 到着の仕方が同じでも、平均を使うと窓口の数を決められないということ。
- ウ 平均が同じなら、全員の待ち時間も同じになるため個人差が見えないということ。
- エ 全体の人数を時間でならすと、特定の短い時間に大勢が来た様子が表れにくいということ。

本文メモ 主な内容と、根拠になる段落を確かめよう。

C 列が生まれる仕組み

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3 ④段落で「詰まりやすい部分」の定義を表す言葉を、「全体」から「部分」まで一続きで抜き出さない。（13字。かぎカッコは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 13

問4 ④・⑤段落の関係として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア ④で全体を制限する部分を説明し、⑤で改善によりその部分に移る場合を示す。
イ ④で人が並ぶ原因を述べ、⑤で机を増やせば必ず解決することを確認める。
ウ ④で失敗した方法を述べ、⑤でその方法を用いない理由を歴史的に説明する。
エ ④で一人の待ち時間を求め、⑤でその値から来場者の総数を推定する。

問5 「受付が二つになったから、待ち時間は必ず半分になる」という説明に足りない点として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 来場者の好みを調べて、資料を渡さない受付を別に用意すること。
イ 展示の内容を同じにして、来場者の感想の違いを比べること。
ウ 後の作業の能力や到着の集中など、全体の流れに関わる条件の確認。
エ 受付係の人数だけを数えて、来場者の到着時刻は記録から省くこと。

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C列が生まれる仕組み

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 来場者の到着が落ち着いても、列がすぐには消えないのはなぜですか。②段落をもとに説明しなさい。(50字以上85字以内)

[illegible]

問7 来場確認の机の前の列が短くなっても、展示室に入るまでの時間が変わらない場合がある理由を説明しなさい。（55字以上95字以内）

[illegible]

問8 混雑の原因を調べるために、何をどのように記録するとよいですか。到着と作業のつながりの両方を示しなさい。（55字以上95字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点

具体と抽象の往復を捉える

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① 辞書で身近な言葉を引くと、意味の説明が一つだけでなく、いくつかに分かれていることがある。例えば「軽い」は、荷物にも、足取りにも、返事にも使われる。同じ言葉なのに、何を述べているかは文によって異なる。この違いは、辞書が意味を自由に作ったために生じたのではない。様々な場面で使われている言葉を集め、共通する部分と異なる部分を整理することで、意味の区分が作られるのである。

② まず、「この荷物は軽い」という文では、重さの小ささが問題になる。これに対し、「帰り道の足取りは軽かった」という文は、体重を測った結果を述べているとは限らない。動きが楽に感じられることや、気分の明るさを伝える場合がある。「軽い返事をした」なら、返事そのものの重さを量るわけではなく、内容を深く考えずに答えた様子を表す場合がある。何を修飾し、前後にどんな説明があるかによって、読み取られる内容が変わる。

③ こうした用例を分類するときは、一つの文だけで区切りを決めるのではない。同じような使い方を複数集め、別の言葉に置き換えたときに意味が保たれるかなどを比べる。例えば、重さについての「軽い」を「重くない」と言い換えるのは自然でも、「軽い返事」を「重くない返事」とすると、伝わり方が変わることがある。置き換えは意味の違いを確かめる一つの手掛かりになる。ただし、どんな文でも置き換えだけで明確に分けられるわけではない。

④ また、意味の区分は、互いに全く無関係な箱が並んでいるようなものでもない。物の重さから、体の動きや気持ちの感じへ表現が広がるように、異なる使い方の間にはつながりが見られる。このつながりを示すと、初めて見る使い方でも、すでに知る意味から考えやすくなる。一方、つながりだけを強く示して区別を省けば、その文でどの意味が使われているかを選びにくい。辞書の説明では、区別とつながりの両方を扱うことになる。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題13ページ。

⑤ 辞書によって区分の数や説明の順序が違う場合があるのは、使う人や目的に応じて整理の細かさを変えることもあるからだ。細かく分ければ違いを確かめやすい反面、似た説明の中から選ぶ負担が増える。大きくまとめれば見通しはよくなるが、用例の細かな違いが分かりにくくなることがある。したがって、区分の数が多い辞書ほど常に詳しく理解できる、と単純には言えない。語釈だけでなく、実際の文に近い用例や説明のつながりも、意味を判断する助けになる。

⑥ 辞書を読む過程は、用例を整理する過程と逆向きの面を持つ。辞書を作るときには多くの具体的な文から共通点を取り出し、説明にまとめる。読むときにはその説明を、今出会った具体的な文へ戻して当てはめる。見出し語が同じでも、最初の説明がいつもその文に当てはまるとは限らない。前後の文脈と用例を照らし合わせることで、整理された区分が、目の前の言葉を理解する手掛かりとして働くのである。

問1〔8点〕 本文全体が説明していることとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 辞書の意味区分が、用例の整理によって作られ、文脈での理解に使われる仕組み。

イ 同じ言葉が使われるたびに新しい意味が作られ、古い意味が消える仕組み。

ウ 辞書の説明を暗記すると、用例を確かめずに全ての文を読める仕組み。

エ 見出し語を増やすほど区分が少なくなり、辞書が読みやすくなる仕組み。

問2〔8点〕 ②段落の三つの例を示した目的として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 荷物、足取り、返事という三語の正しい漢字を説明するため。

イ 「軽い」は重さを述べる場合にだけ使うべきだと説明するため。

ウ 同じ語でも、対象や文脈によって述べる内容が変わると示すため。

エ 三つの意味が歴史的に生まれた時代順を示すため。

本文メモ 主な内容と、根拠になる段落を確かめよう。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 設問

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3〔8点〕 ③段落で置き換えをどのようなものと位置付けているかを、「意味」から「手掛かり」まで一続きで抜き出さない。 (17字。かぎカッコは含めない。)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 17

問4〔8点〕 ④段落で、意味の区分を「全く無関係な箱」のようにではないとする理由として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 辞書の説明は紙面上で隣り合っているので、同じ文で使わなければならないため。
- イ 異なる使い方にもつながりがあり、知っている意味から別の使い方を考えられるため。
- ウ 一つの言葉に複数の意味があると、説明同士の違いを示せなくなるため。
- エ 意味の区分が違って、全て同じ別の言葉に置き換えられるため。

問5〔8点〕 「意味区分が多い辞書なら、どんな文も理解しやすい」とする意見への説明として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 本文は区分を細かくする利点を認めないので、少ない辞書ほどよい。
- イ 辞書で説明の順序が違う場合は、どちらか一方だけが正しい。
- ウ 区分が多ければ用例が不要になり、読み手は説明だけを比較できる。
- エ 細かな区分は違いを示すが選ぶ負担も増え、文脈や用例との照合も必要である。

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 設問

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6〔20点〕③段落の分類の方法と④段落の説明を踏まえ、意味の「区別」と「つながり」を両方示す必要がある理由を説明しなさい。（55字以上90字以内）

[illegible]

問7〔20点〕⑥段落の「逆向きの面」とは、辞書を作るときと読むときで、どのような向きが逆になるということですか。（55字以上95字以内）

[illegible]

問8〔20点〕ある生徒が、「軽い返事」の「軽い」を辞書の最初の説明だけで「重さが小さい」と考えました。本文に沿って、どう調べ直すとよいかを理由とともに説明しなさい。（60字以上100字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。